



本づくり研究会

たてかわふみこ

第2回 私の本づくり体験 ①出版社から発行、の巻・・

これまで40年間の、ケチ研、地球旅遊の時代に、旅の本を数冊出版社から出しました。中でも私の係わりの深かった本は以下の3冊です。

① 世界ケチケチ旅行

世界ケチ研編 講談社 1976. 7月発行 222ページ B6 変形サイズ 価格不明

② 手づくり世界旅

世界ケチ研編 価格1500円
東京堂出版 1994・7月発行
400ページ B6 変形サイズ

③ はじめての海外旅行

立川文子著 価格1000円 ナツメ社 2003・4月発行 226ページ B6変形サイズ



① 1976年発行「世界ケチケチ旅行」

ケチ研が発足して4年後、講談社からの依頼で作ったのが、この本です。「個旅」に載った記事の中で、特に重要な、読んでほしい記事をまとめました。かなり独断と偏見に満ちた、オール手描きの本でしたが、ガイドブックのないこの時代、ひとり旅を目指す若者に爆発的な人気を得ました。この本に刺激され、自力で貧乏旅行を果たした会員も多かったようです。

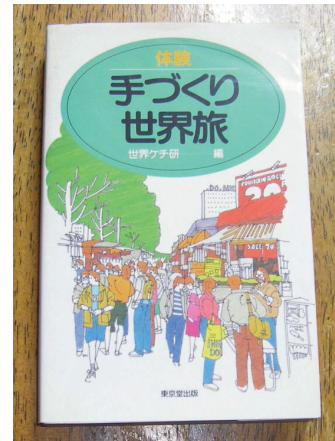


② 1994年発行「手づくり世界旅」

次の本は、東京堂出版から出した「手づくり世界旅」という本です。この本は「世界ケチ研編」で出しました。内容は、個人旅行者のためのガイドブックで、それまで発行してきた「個旅」の集大成的な本でした。長年記事を寄せてくれていた会員の協力を得て、実体験豊富な内容でした。

自分での旅の手続きの方法や、いかに安く旅をするかのノウハウも満載でした。東京堂出版のご担当者は大変理解のある方で、殆どこちらの要望を受け入れて作ってくれました。その結果、400 ページもの、結構厚い本になりました。

反省点は、文字が多かったため小さい文字になり、読みにくかった、という点です。



③ 2003年発行「はじめての海外旅行」

最後に係わったのは、ナツメ出版からの依頼で作った「はじめての海外旅行」という本です。この本は、初めて海外へ出る人のための初心者向けの本で、個人旅行者のみでなく、パック旅行者も含めての基礎的なガイドブックでした。

この本は最初の打ち合わせから完成まで担当しました。打ち合わせ初日の制作会社からの要望は下記の3点でした。

- ① 100の項目を作る。
- ② 1ページ見開きで完結する。
- ③ 文字を少なく、図やイラスト、写真で構成する。



与えられた制作期間は約6カ月。写真を多用しようと考え、すぐにロンドンに旅行し旅の初めから終わりまで写真をとりました。また会員にアンケートを行い、素朴な疑問や、失敗体験、アドバイスなどを寄せてもらいました。また、苦手なパック旅行の部分は体験豊富な会員に頼みました。

この体験で特に勉強になったことは、

- ① 本の全体像を一覧表にして構成する方法です。大きく内容を8つのステップに分け、100の項目を立てました。そして、どれを図解にするか、どこを表にするかなどを最初に決めました。
- ② トビラは若い番号にして省末にはコラムを入れるなど、この時初めてページ割りということを考えました。
- ③ 文体についての取り決めを最初にしました。本文は「ですます調」見出しは「である調」、箇条書きは「である調」などです。文字数は1項目あたり200字以内。どうしても長くなり、ずいぶん書きなおしました。この頃から、世の中は絵や写真の多い本が主流になっていました。

この本はプロの作り方を学べて大変勉強になりました。初版7000部発行です。